

秋川雅史さんに 感謝状を贈呈



西条市出身のテノール歌手・秋川雅史さんは「千の風になって」をはじめとする数多くの楽曲を発表され、テレビ、ラジオ番組などへの出演、コンサートの開催など多彩な音楽活動を展開されています。その活躍の中で、常にふるさと西条市への想いを語っていただき、積極的に西条市の情報発信に努めていただいています。

このような秋川さんの市勢伸展への貢献に対し、伊藤市長から感謝状が贈呈されました。

エッセイ

心に響く歌

秋川 雅史

「私のお墓の前で泣かないでください。ここに私はいません」。この印象的なフレーズで始まる『千の風になって』という曲に出会えたことで、私の世界は広がりました。この曲は、もともと米国の詩で作者は不詳。各国の追悼式などで朗読され、世界中で感動を呼び起こしていた詩です。日本では、作家の新井満氏によって日本語の訳詞と曲が付けられました。

2005年から私はその曲を歌い、ラジオでもオンエアされてきましたが、昨年のNHK紅白歌合戦で披露して以来、皆さんから大きな反響をいただいています。私はこの曲が、聴く人の悲しみや苦しみを癒し、前向きに生きていくエネルギーになってほしいと思いつながら歌っています。

私は、クラシックに限らず日本の名曲を歌っています。日本ではクラシックは高尚なもので、少し敷居が高いと感じている方も多いので、耳慣れた曲を歌い少しでも親しみを持ってもらいたければと始めたのです。

クラシック歌手というと、何か「特別な人」のように思われがちですが、私はごく普通の生



あきかわ まさふみ

1967年、西条市生まれ。4歳よりヴァイオリンとピアノを始める。声楽家である父の指導を受け声楽の道へ。国立音楽大学・同大学院を卒業後、4年間イタリアのパルマに留学。帰国後は、第九のソロや数々のコンサートに出演。98年カンツォーネコンクール第1位、日本クラシック音楽コンクール最高位を受賞。アルバム『威風堂々』『ドリーム・オブ・ラブ』、シングル『千の風になって』など各種CDもリリース。

活を普通に楽しんでいます。それを分かっていたら、クラシックをもっと気軽に楽しめると思います。

私は西条市の生まれで、秋の西条まつりでは、今でもだんじりを担いでいます。仕事もこの時ばかりはお休み。地元の青年団の一員として、勇壮で絢爛豪華なこの祭りに参加しています。

「クラシック歌手が、だんじりを」なんて驚かれる方もいますが、この土地で、こうした体験ができることに誇りを感じています。小さい頃の私はわんぱくで、カエルやカメなどを捕まえるのが得意でした。特にウシガエル、あの大きなカエルを捕まえるのに夢中でした。

綺麗な水、豊かな自然に囲まれた西条で、私の音楽は育まれました。そんな私の歌ですから、「堅いクラシック」と思わずに、気軽に楽しんでいただきたいと思います。

これからもジャンルにこだわらず、多くの方の心に響く歌を披露していきたいと思っています。

このエッセイは、四国電力株式会社発行の広報誌「ライト&ライフ(2007年4月号)」より転載させていただきました。